

国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会 A S E A N 側委員による共同声明
(仮訳)

我々、国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会の A S E A N 側委員は、2016 年 2 月 3 日、日本、東京にて、第 2 回国際交流基金アジアセンター事業諮問委員会に出席し、同センターが、2014 年 4 月の開設以来、2013 年 12 月、日・A S E A N 友好協力 40 周年を記念する日・A S E A N 特別首脳会議において安倍総理が発表した「文化の WA プロジェクト～知り合うアジア～」を実行していることを、深い満足と共に記する。

日本政府は、この「文化の WA プロジェクト」に基づき、特別予算を設置し、国際交流基金にアジアセンターを開設して、次の目的を達成するための各種事業を実施している。

- (1) 交流の裾野を広げ、相互理解を促進する。
- (2) 文化の担い手となる人材の育成やソフト・インフラの発展を促進する。
- (3) 新たなネットワークの形成、持続的な交流基盤・プラットフォームの構築を促進する。
- (4) 新しい価値・ムーブメントの創出、未来に向けた問題提起・提言を促進する。

国際交流基金アジアセンターが、その設立以来、①日本語学習支援（“日本語パートナーズ”派遣事業）及び②芸術・文化の双方向交流の二つを主要事業を、目にみえるかたちで着実に展開していることに、敬意を表する。これらすべての事業は順調に遂行されており、日本と A S E A N 各国の間の友好の絆と相互理解を深めるために永続的な恩恵をもたらすであろうことを確信する。

よって、我々は、以下の声明を表する。

1. 我々は、人と人を繋ぎ、ネットワークを拡げ、アジア域内において芸術・文化における協働を創出するという明確な目標に特化して、東南アジアにおいて包括的な国際文化交流を実施しているアジアセンターの重要性を、高く評価する。
2. 我々は、アジアの人々の間に共に生きる隣人としての共感や共生の意識を育み、未来に向かうアジアに調和と平和の輪を生み拓げるために、アジアセンターが展開している各種事業の幅広さに、強い感銘を表する。
3. 我々は、「文化の WA プロジェクト」を通じて表明された日本政府の誠意、す

なわち日本とアジアの国々との間にイコールパートナーシップを築き、双方向交流を推進し、多様なアイデンティティ、各国の文化や伝統を尊重して、多様性における調和を深めようとの姿勢を歓迎する。

4. 我々は、日本政府による力強いコミットメント、すなわち2020年度までの間、約200億円の予算を設置して、日本語学習支援（ASEAN各国の学校において現地教師のパートナーとして日本語教育及び日本文化紹介を推進する“日本語パートナーズ”の派遣）及び芸術・文化の双方向交流（市民交流、ネットワーク構築、共同・協働作業のための各種事業の促進・支援）のための、数多くの重要な事業を実現していることを、深い満足と共に記する。これら事業の実施は、日本とASEAN各国の間に教育と文化の両面で絆の強化に貢献している。
5. 国際交流基金アジアセンターが、これからもその意義深い活動を増強するであろうことは間違いない故に、我々は、ASEAN各国政府関係機関に対し、国際交流基金のすべての海外拠点が日本とアジア各国の文化交流を推進、強化するため様々な活動を実施するという役割を果たすために、ガイダンス、支援、協力、その他必要とされるあらゆるアクションを提供するよう、謹んで要望する。
6. 結論として、我々は、日本政府、とりわけ安倍総理の、国際交流基金アジアセンターが東南アジア諸国において担っている数多くの意義深い事業を支えるための取り組みとコミットメントに対し、心からの祝意と深い謝意を表する。